

市民ひとりひとりが学び、調べ、守る、自然と生きもの 生物多様性金ヶ崎公園戦略



asagimadara



kobanomitsubatsutsuji



kogera



yamatotamamushi



kasumizakura



ruribitaki



kabutomushi



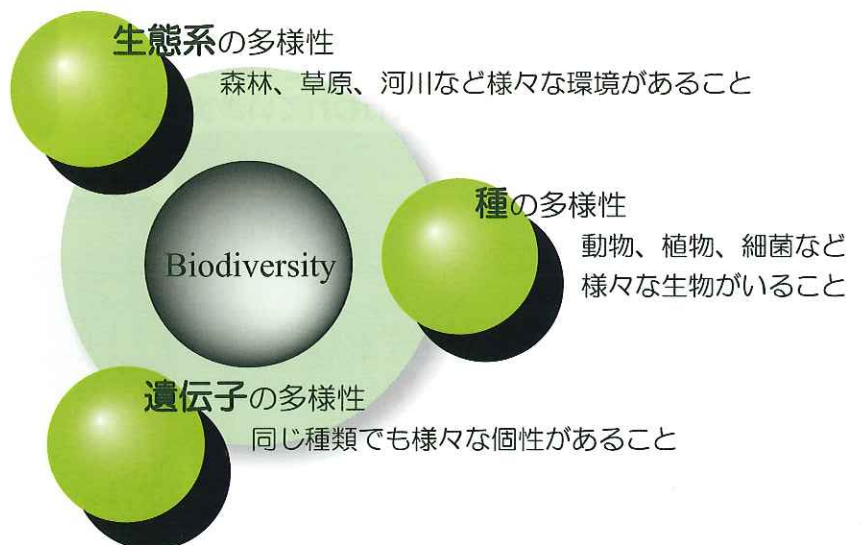
金ヶ崎公園は、明石市に残された貴重な里山とため池を大切に守りながらつくられた都市公園です。公園には多くの樹木、草花が生え、いろいろな野鳥、虫などを見ることができます。しかし、里山の放置、植生の遷移、外来種の問題など、公園の自然や生きものをとりまく環境は昔と大きく変わってきています。

金ヶ崎公園のかけがえのない自然と生きものを守り、未来に伝えていけるかどうかは、わたしたちのこれからの取り組みにかかっています。そこでわたしたちは、公園の自然やこれまでの活動を生物多様性という点から見つめ直し、今後の取り組みの指針とするため、生物多様性「金ヶ崎公園」戦略をつくりました。

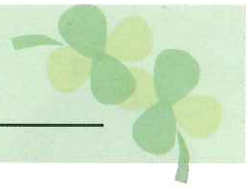
生物多様性について

生物多様性は「すべての生きものの中に違いがあること」という意味をもっており、大きく3つに分けることができます。それは、「生態系の多様性」、「種の多様性」、そして「遺伝子の多様性」です。

3つの多様性は相互に関連しています。種の多様性を守るためには、いろいろな生きものが生息・生育するための多様な環境とそれぞれの種の多様な個性、つまり生態系の多様性と遺伝子の多様性が不可欠です。生物多様性の保全を進めていくためには、これら3つの多様性の視点をもちることが大切です。



金ヶ崎公園の自然・生きものと特徴



金ヶ崎公園には豊かな自然・生きものが残されています。明石市の生物多様性保全を進めていく上で、公園はとても重要な場所です。

公園の樹林

金ヶ崎公園の樹林は、全て人間活動の影響を受けてできた二次林（里山）で、大きく2つのタイプがあります。一つは斜面の中部から下部にみられるコナラ、アベマキの二次林です。もう一つは斜面の上部や尾根部にみられるアカマツの二次林です。これらの二次林はツツジ類などの里山の構成種が今でも多く生育する貴重な樹林です。



公園の動物

樹林、林縁、水路といった多様な環境をもつ金ヶ崎公園では、動物の種類も多く、例えば、ギンヤンマ、オニヤンマなどのトンボ類、クロアゲハ、キタテハなどのチョウ類を見ることができます。コナラやアベマキの樹液にはカブトムシ、クワガタムシ、スズメバチなどが集まります。コゲラ、キビタキ、オオルリなどの鳥類も多く姿を見せ、野鳥愛好家の間ではよく知られた観察地のひとつになっています。

公園の特徴

● 樹林景観をもつ公園

明石市には、明石公園をはじめとして約400もの公園緑地がありますが、その中でも、金ヶ崎公園は、里山のおもかげを残す市内で唯一の公園緑地です。

● 生きもの豊かな公園

樹林が広く残され、多様な環境のある金ヶ崎公園には、他の場所では少ない生きものが多くみられます。金ヶ崎公園はこれらの動植物の貴重な生息・生育地として機能しています。

● みんなでつくる公園

金ヶ崎公園の管理・運営は、（財）金ヶ崎コミュニティ協会を中心に、住民参画型で行われています。多くの人の関わる開けた公園であり、イベントや活動を企画・運営しやすい公園です。



ohruri



kokabuto



medaka



kibitaki



kaitsuburi



shojotonbo



生物多様性保全に向けた活動



わたしたちは、生物多様性保全のために様々な活動に取り組んでいます。これらの活動は、必要な改善を加えながら今後も引き続き進めていきます。

活動状況と目指す方向性

エコウイングあかし自然グループを活動母体として、「安全に、楽しく、継続して」をモットーに、2008年12月より里山の手入れなどの活動が始まっています。



活動のイメージ図

植生調査にもとづく里山管理

1960年代以降の燃料革命により、薪や炭などを採取・生産するための樹木の伐採や、田畑の肥料にするための落ち葉かきといった手入れが行われなくなりました。その結果、ヒサカキやカクレミノなどの照葉樹が繁茂し、明るい環境を好む里山の植物の生育を阻害しています。また、かつて筍を得るために手入れされていたモウソウチク林も放置され、荒廃した藪に変わったり、樹林に侵入するといった問題を引き起こしています。

このような照葉樹林化の進んだ樹林や荒廃したモウソウチク林の生物多様性を回復させるため、里山の手入れ（里山管理）を行っています。手入れ前に対象区域で植生調査を行い、その結果にもとづいて目標とする樹林の姿を設定し、手入れの計画を立てています。手入れ後にも継続的に植生調査を行い、以降の計画の見直しを行っています。

学びのプロセスを重視した里山管理



里山の手入れは、効率を求めず安全第一で行っています。また、単純に伐採するだけでなく、里山について理解を深めるために、その現状や歴史、動植物などについての事前学習や観察会も行っています。

里山の調査や手入れは、兵庫県立人と自然の博物館、NPO法人ひょうご森の倶楽部などの協力・技術指導を受けながら進めています。また、伐採した材を有効活用するために、リパークリーン・エコ炭銀行のシステムを利用したモウソウチクの竹炭づくりなども行っています。

環境学習・生涯学習の推進

生物多様性保全を進めていくためには、里山の手入れのような直接的な活動のほか、幅広い世代が生物多様性への関心を持ち、その保全活動に参加できるよう、環境学習・生涯学習を進めていくことも大切です。金ヶ崎公園では、これらの学習の場として広く利用されるよう、エコウイングあかしの参画メンバーでもある地域の団体「森の探偵団」が中心になって様々なプログラムの企画・運営を行っています。



生物多様性保全に向けた体制・仕組み



わたしたちは、生物多様性保全を進めていくために、以下のような体制・仕組みにもとづいて活動していきます。

● 多様な主体の参画・協働

金ヶ崎公園は、(財)金ヶ崎コミュニティ協会を中心に、市民、事業者、行政の参画・協働によって管理・運営されています。様々な意見を集約することで、多くの人に愛され、利用される公園を目指すと共に、生物多様性保全を含めた諸課題の解決に取り組んでいきます。

● 明石市環境基本計画の推進

明石市環境基本計画は、明石の環境全般に関する取り組みの考え方と内容を記した計画書です。2006年度に市民、事業者、行政の三者協働による見直し作業が行われ、「エコウイングあかし」が設立されました。金ヶ崎公園は、環境基本計画に書かれた13のリーディングプロジェクト(先行的な取り組み)の推進場所の一つに位置づけられており、特に自然環境に関わる情報発信拠点としての役割が期待されています。環境基本計画にもとづき、公園での様々な取り組みを広く発信し、生物多様性保全の活動の輪を広げていきます。

● 国・県・地域による戦略の推進

1992年の生物多様性条約の採択以降、生物多様性の保全は地球規模の課題として認識されるようになってきました。国内では2010年に第四次となる生物多様性国家戦略2010、兵庫県では2009年に生物多様性ひょうご戦略が策定されました。明石市でも2011年に生物多様性あかし戦略が策定され、その中で金ヶ崎公園は活動拠点の一つに位置づけられています。国・県の包括的な戦略と地域による身近な戦略により、生物多様性の保全活動を進めていきます。

● 公園の概要

金ヶ崎公園はJR「魚住駅」から徒歩で約30分の場所に位置しています。中央部に広場、グラウンド、管理事務所などがあり、それらを囲むように樹林が広がっています。

金ヶ崎公園は明石市の生物多様性保全を進めていくにあたり大変重要な場所であるほか、「緑の基本計画」に示された拠点の一つでもあり、「ひょうごの森百選」にも選ばれています。



市民ひとりひとりが学び、調べ、守る、自然と生きもの 生物多様性金ヶ崎公園戦略

編集 (財)金ヶ崎コミュニティ協会・明石市都市整備部緑化公園課・明石市環境部地球環境課
エコウイングあかし(明石市環境基本計画推進パートナーシップ協議会)・森の探偵団
兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部
監修 兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部 黒田有寿茂・服部 保
発行 兵庫県立人と自然の博物館
発行日 2011年(平成23年)3月
印刷 株式会社ブリテック

